

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Patients with central serous chorioretinopathy have high circulating alpha-klotho concentrations

(中心性漿液性脈絡網膜症患者では血中 α クロト一濃度が高い)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻 高次神経制御系

眼科学 (指導教授 五味 文)

氏名 田村 映理

ストレスは中心性漿液性脈絡網膜症(以下 CSC)の危険因子であるが、このストレスの適切なバイオマーカーは特定されていない。 α クロト一は、老化遺伝子 klotho によりコードされ、腎臓等の臓器で発現し、循環器系にも存在する。既報で心理的ストレスや喫煙などが健常者において血中 α クロト一濃度を上昇させる可能性が示唆されており、これは生体防御応答の一部とも考えられている。本研究では、 α クロト一が CSC 患者におけるストレス指標を示す潜在的バイオマーカーとなりうるかどうか評価することを目的とした。対象は 2019 年 12 月から 2021 年 7 月にかけて兵庫医科大学病院で急性または慢性 CSC と診断され治療を受けた患者と、性別・年齢をマッチさせた健常者とし、両者の血中 α クロト一濃度を比較した。CSC 患者および正常対照群において、年齢、性別、喫煙状況、黄斑中心窓下脈絡膜厚(SFCT) と血中 α クロト一濃度の関連性を評価した。さらに、CSC 患者においては、急性と慢性、さらに治療後の網膜下液の再発の有無で血中 α クロト一濃度を比較した。本研究では、CSC 患者 56 例(男性 46 例、女性 10 例、急性 38 眼、慢性 18 眼) と健常対照 27 例(男性 19 例、女性 8 例) を対照に含めた。CSC 患者の血中 α クロト一濃度は対照群より有意に高値を示した(平均 827 ± 232 pg/mL および 724 ± 183 pg/mL; $p=0.035$)。血中 α クロト一濃度と年齢、性別、喫煙歴、SFCT との間に有意な関連性は認められなかった。急性と慢性の比較では、急性 CSC 患者の平均血中 α クロト一濃度は、慢性 CSC 患者よりも有意に高かった(平均 877 ± 226 および 721 ± 214 pg/mL; $p=0.036$)。CSC の再発は 56 眼中 10 眼(17.9%) で認められ、再発例では、非再発例と比較して有意に高い血中 α クロト一濃度を示した($p=0.0219$)。要約すると、CSC 患者の血中 α クロト一濃度は健常者よりも高く、 α クロト一が当該患者のストレス指標となり得ることを示唆している。